

国際貨物便が実質過去最高

■成田空港25年度発着回数

成田国際空港会社によると、2025年度（25年4月～26年3月）における成田空港の発着回数は、国際線貨物便がコロナ禍の期間を除いて過去最高となる前年度比4%増の3万1404回となった。国際貨物量の堅調な荷動きが続き、発着回数を押し上げた。主な方面別の実績を見ると、太平洋線は減少したが、中国線や香港線、台湾線、韓国線が伸びた。貨物便と旅客便を合わせた国際線発着回数は年度として過去最高となる5%増の20万5990回となった。

コロナ禍の影響が大きかった時期は旅客需要が大幅に減少して旅客便の運休・減便が相次いだ。ベリースペースの減少が特に顕著だった20年度から22年度にかけては、旅客機貨物便を含む国際貨物便の運航がベリースペースを補う形となった。チャーター便を含めて国際貨物便の運航が大幅に増加した。この期間を除くと25年度の国際線貨物便発着

回数は過去最高となった。

25年度の方面別国際線貨物便の概況は、欧州方面やアジア方面が堅調に推移した。航空会社別では、日本航空やカリッタ航空、大韓航空、中国郵政航空、SFエアラインズの伸びが目立った。中東方面の貨物便実績の大幅な増加は、エミレーツ航空が25年5月に成田空港に貨物便を乗り入れたことが主な要因とみられる。

25年度の成田空港全体の発着回数は4%増の25万4134回で、国際旅客便は5%増の17万46回だった。年度後半に中国方面で旅客需要の減少もあったが、全体の国際線旅客数は継続的な訪日需要の高まりもあって6%増の3539万人と好調に推移し、年度としては18年度に次ぐ過去2番目の高い水準となった。国際線の「その他」は30%増の4540回だった。

国内線発着回数は3%減の4万8144回で、内訳は旅客便が4%減の4万4857回、貨物便が8%減の2256回、その他が24%増の1031回。国内線旅客便の減少は、ローコストキャリア（LCC）各社における国際線への機材振替などが要因となった。

成田空港の2025年度の国際線発着回数

国際線旅客便(上位社)

航空会社	発着回数	前年度比
日本航空	16,315	9
全日本空輸	12,782	5
ユナイテッド航空	7,536	12
チェジュ航空	6,065	10
ジップエア	5,517	15
大韓航空	5,188	18
スプリングジャパン	5,064	21
ティーウェイ航空	4,821	5
チャイナエアライン	4,627	4
キャセイパシフィック航空	4,556	▲6

※前年度比は増減率(%)、▲はマイナス

国際線貨物便(上位社)

航空会社	発着回数	前年度比
全日本空輸	6,851	▲5
日本貨物航空	4,724	▲3
フェデラルエクスプレスコーポレーション	4,312	▲5
日本航空	2,925	58
ユナイテッドパーセルサービス	1,907	▲2
カリッタ航空	1,357	259
大韓航空	982	8
中国郵政航空	942	19
アトラス航空	845	▲2
SFエアラインズ	838	886

国際線路線別

国際線	国際線旅客便		国際線貨物便	
	発着回数	前年度比	発着回数	前年度比
太平洋線	22,257	9	6,400	▲4
欧州線	4,843	7	2,045	3
オセアニア線	5,082	7	5	▲37
グアム線	3,304	▲5	0	—
アフリカ線	773	6	4	100
アジア線	44,806	6	1,345	28
(うち中東)	(2,836)	(14)	(95)	(1,483)
台湾線	16,517	10	2,016	15
香港線	14,281	1	4,056	15
中国線	27,471	2	11,981	1
韓国線	30,711	4	2,763	6
国内区間	—	—	789	27
合計	170,046	5	31,404	4

(成田国際空港会社資料を基に策定)